

小林義雄*: 冬虫夏草類雑記 (16)**

Yosio KOBAYASI*: Miscellaneous notes on the genus
Cordyceps and its allies (16)

76. *Cordyceps hauturu* Dingley in Trans. Roy. Soc. New Zealand 81(3): 334 f. 4, 6 (1953).

Hab. Larva of Lepidoptera. Auckland, Oct. 1945. Type in Herb. Plant Diseases Div. Dept. Sc. & Indust. Research, Auckland.

子坐の外観は *C. robertsii* に酷似している。Dingley は本菌の被子器が埋生である点で区別出来るとしている。しかし私がタイプを観察した限り、被子器は裸生、密着しているように見えた。乾燥標本の色は暗紫褐色である。この種名 *hauturu* の語源は示されていないが、土語のように思われる。

77. *Cordyceps myrmecophila* Cesati in Bot. Zeit. 4: 877 (1846).

Hab. On *Formica rufa*, Hymenoptera. Italy, 1846. Type in Herb. Jard. Plant, Paris.

タイプ標本は3本の菌体が台紙に糊で固着され、頭部を解剖することを遠慮した。この右端の子実体と Cesati の図 (Cooke に転載) とが一致することにより、これがタイプと思われる。標本には次のメモがある。"*Hypocrea myrmecophila* Ces. Brixiae (Cenomarum) 1846 in memoribus Cesati". 原記載では胞子が未熟のようである。キューには Cesati の名が記された一枚の標本がある。1889年5月に E. Ule がブラジルの St. Catharina の Tubarro で採ったもので、これも貧弱な一個体である。私は本種の2次胞子の形に関心があるが原著者は勿論、Masse, Petch, Teng などの論文にはこれを明記して居らず、Mains は単に breaking into 1-celled fragments, 8-10×1.5 μ と記しているのみである。文献による限り、2次胞子が円筒形であるか紡錘形であるか判らない。

78. *Cordyceps sphecocephala* (Kl.) Sacc., Michelia 1: 321 (1879); Cooke, Veg. Wasps p. 41 f. 11 (1892). Syn. *Sphaeria sphecocephala* Klotzsch ex Berk. in Hooker, Lond. Journ. Bot. 2: 206 (1843).

Imperfect st. *Hymenostilbe sphecophila* (Ditmar) Petch.

Hab. On *Polistes americanus*, Hymenoptera. Jamaica. Date?, coll. by Bancroft. Type in Kew.

* 国立科学博物館 National Science Museum, Tokyo.

** 本誌 55: 280~284 (1980) から続く。

本種の図は既に Tulasne (1865), Cooke (1892), Seaver (1911), Lloyd (1916) 等によって発表されている。種名の綴字に関して後年 *sphaerocephala*, *sphecophila* 等と誤記して異った意味に解釈しているものもある。タイプの写真の左端のものが Holo-type らしいが、頭部は折損して無い。

79. **Cordyceps taylorii** (Berk.) Sacc., *Michelia* 1: 320 (1879); W. G. Smith, in *Gard. Chron.* Feb. 1887: 288 f. 62; Cooke, *Veg. Wasps* p. 155 (1892); Olliff, in *Agr. Gaz. N.S.W.* 6: 409 (1895); Willis in *Muelleria* 1(2): 83 (1959). Syn. *Sphaeria innominata* Taylor in *Tasm. J. Nat. Sci. Agric. Statist.* 1: 307 Illust. (1842). *Sphaeria taylori* Berk. in *Lond. Journ. Bot.* 2: 209 pl. 8 f. 2 (1843).

Hab. On larva of *Pielus* & *Trictena*, Lepidoptera. Murrumbidge, N.S.W., Australia. by J. Allan, 1837.

本種の学名の由来については Willis の詳細な記録がある。彼によれば Berkeley の正式な発表以前に Taylor が *Sphaeria innominata* 名を発表して居り、このタイプは Berkeley のものと一揃いのものという。本来ならばこれを採用すべきであるが、混乱を起す懼れがあるためにこれを避けた由である。キューにある Berkeley のタイプは太い柄の先に細かく分岐した枝が束生し、未熟である。後年 Smith (1887) が発表した図は立派なもので Baron von Mueller がビクトリヤ州で採ったものである。これの原標本も Kew にあるが、大分破壊しているのが残念である。Smith の図に示されるように、子坐の下半部は土中にあり、土塊がこぶ状に附着している。上半は鹿角状に分岐し、灰黒色で、表面生の被子器が密布している。

80. **Cordyceps trictenae** Olliff in *Agr. Gazette N.S.W.* 6: 410 pl. 3 (1895); Willis in *Muelleria* 1(2): 83 (1959).

Hab. On larva of *Trictena subterranea*, N.S. Wales. Type in Kew.

現在の分類学の常識では考えられぬ“新種”で明らかに *C. taylorii* そのものである。原記載は次のように一行と一語で片づけられ、その図は既に半世紀以上も前に Berkeley によって発表された *C. taylorii* と全く同一である。原文は次の如くである。

“Stem erect, very robust, subcylindrical, divided into many branches at the extremity. The figure of this species is from an unpublished lithograph drawing, once the property of the late Mr. G. R. Gray, and now in my possession”. 当時はオーストラリアと英本国とは半世紀の隔たりがあったと見える。シドニー植物園に保存されている *C. trictenae* の一枚は、1906年に J. E. Syme によりビクトリヤ州の Apollo Bay で採られたもの、上のラベルの上方に Willis の手で *C. taylorii* と記されている。

81. **Cordyceps kirkii** Cunningham in *Trans. Brit. Myc. Soc.* 8: 72 f. 1-3 (1922); Lloyd, *Myc. Writ.* 7: 1352 pl. 331 f. 3152 (1925); Dingley in *Trans.*

Royal Soc. New Zealand 81(3) : 336 (1953).

Imperfect st. *Akanthomyces* type.

Hab. On adult *Deinacrida rugosa*, Orthoptera. Stephan Island, New Zealand. Coll. by H.B. Kirk, Jan. 1922. Type in Plant Diseases Inst., Dept. Sc. & Ind. Res., Auckland.

タイプ標本を見ると虫体には全然翅がなく、一見して幼虫と思われたが、この虫の種類は成虫になっても翅を欠くことが特徴のようである。原著にある図は生品に基いたものらしく、虫体の一侧に多くの子実体が群生しているが乾燥品では僅小のものが臥生していた。子実体は長さ4-5mmの板の先に卵形又は球形の頭部がつき、未熟なようで、分離した2次孢子の図も記載もない。しかし原著や Dingley による記載は詳細で、種の特徴をよく捉えている。後者は分生子の存在を記している。それによれば頭部の表皮層をなす細胞が *Phialide* となり、鎖生する分生子は楕円形又は卵形、 $3-6 \times 1-1.5 \mu$ という、即ち *Akanthomyces* 型である。

82. *Cordyceps pieli* Olliff in Agr. Gaz. New South Wales 6 : 412 pl. 2 f. A (1895).

Hab. On larva of *Pielus labyrinthicus*, Lepidoptera. Coonamble, New South Wales, Australia. Coll. by J.H. Rose. Date no mention. Type in Herb. Bot. Gard., Sydney.

タイプ標本の現在の姿は原記載の挿図(線画)と全く変りがない。幼虫の頭の先より太く短い柄が直出し、その先は折損している。原記載に被子器が埋生するとあるが疑問である。Lloyd (1920) はこれを *C. gunnii* が破壊して下半部のみ残ったものとした。私もこの見解を支持した(1941)。タイプに Willis による“この標本は未熟で不整形であるが *C. hawkesii* そのものである”という附箋がある。斯様に不完全な標本に基く新種でも、正式に発表されてある限り無視する訳には行かない。こんなものでも、しらべするためには態々न्दニーまで赴かねばならなかった。

83. *Cordyceps stenocori* Quél. in Assoc. Franç. Avanc. Sc. 24-session 2 pt. p. 622 pl. 6 f. 18 (1895); Sacc., Syll. Fung. 14 : 663 (1899); Petch in Trans. Brit. Myc. Soc. 19 : 177 (1935).

Hab. On adult *Stenocorus mordax*, Cerambycidae of Coleoptera. Vosges, France, 17 July, 1891, coll. by Rene Ferry. Type in Herb. Jard. Plant, Paris.

本種ははじめから分生子型であることが判っていたにも拘らず Quélét は敢えて *Cordyceps* 属名をこれに与えた。タイプ標本に添えられたスケッチには標本と同様に虫の頭部が欠けている。しかし子実体の形は印刷された原図によく似ている。原記載によれば、柄の長さ2-3cm、糸状、単一又は分岐、白色、頭部は紡錘形或は長形、単一又は分岐、表面は白色、粉質、分生子は卵形、長さ 5μ 、2~3個の小粒があり無色である。

本種に対しては Petch 只一人が見解を述べているが、本種が *Isaria* に近いという以上に立入っていない。

84. *Cordyceps nutans* Pat. in Bull. Soc. Myc. Fr. 3: 127 pl. 11 f. 5 (1887).

Hab. On adult soldier bug, Hemiptera. Kakombe, Tanganiika, 24 Feb. 1964, coll. by Pirozynskii, kept in Kew. Ammango forest, Entebbe, Uganda 1915, kept in Kew.

カメムシ類が分布する地方には必ず本菌が発見されると思われるが、まだ資料が少く、欧、北米よりの報告はない。アフリカではコンゴから報告されて居り、ここに示す標本によりタンガニカ、ウガンダにも産することが判明した。タンガニカの標本写真で頭部の小形のものと大形のものとが一緒に採られて居り、頭部の大きさは寄主の大きさに比例することを裏付けしている。

85. *Cordyceps necator* Pat. et Hariot in Bull. Soc. Myc. Fr. 28: 283 (1912); Lloyd, Myc. Writ. 7: 1288 (1924); Sacc., Syll. Fung. 24: 700 (1926).

Hab. On ant. Ivory Coast, Central Africa, coll. by Chevalier. Date no mention. Type in Herb. Jard. Plant, Paris.

パリーのおし葉庫にはこの他に Le Ister が Gabon で採った標本もある。本種は *C. lloydii* に極めてよく似ている。

86. *Cordyceps sherringii* Masee in Ann. Bot. 5: 510 f. 4 (1890) et 9: 27 (1895); Cooke, Veg. Wasps p. 35 f. 8 (1892) (sphalmate ut *C. sheeringii*); Petch in Trans. Brit. Myc. Soc. 16: 75 (1931).

Hab. On ant, attached to frond of fern by mycelium. Grenada, W. Indies. Coll. by R. V. Sherring, Oct. to May, 1890-1891 (Comm. West India Exploration Committee).

タイプ標本は当然キューにある筈である。現に私はここで Masee の記載にある通り、シダの葉上についたアリに生ずる菌体で、本種名を附けた標本を見出した。これが当然タイプだと思った。然るにこれをしらべると、子実体は未熟であった。Sherring は 1890-'91 に 2 回以上本菌を採集している。しかも Masee は成熟した菌の図を残している。一つの見解として彼が成熟した菌体を解剖のため使用し尽し、未熟のものが残ったと解釈することも出来る。一応彼の記載をここに転写する。“Clubs gregarious. Stem slender flexuous, lesser than 1 cm long, with apical globose capitulum. Capitulum lesser than 2 mm in diameter. Perithecia immersed. Sporidia short thread-like, with 5 septa, not breaking into sec. spores”. 私は 1941 年にこれを *C. lloydii* の異名としたが間違いであった。頭部の形が少しく異り、胞子が 2 次胞子に分裂しない。Masee の観察が正しいものとすれば、本種は *Ophiocordyceps* 群に編入すべきである。